

日本臨床検査自動化学会科学技術委員会
平成 28 年度第 2 回委員会議事録

1. 日時：平成 28 年 9 月 24 日（土）8:00～9:03
2. 場所：パシフィコ横浜会議センター 511 号室
（日本臨床検査自動化学会第 48 回大会）
3. 出席者（敬称略）：池田、大久保、澤部、白井、山舘、三村、片岡、神山、村本、山本、篠原、外園、藤本、浅田、柏木、田中、谷本、御子柴、田代、森川、金沢、桑、細萱、芦原（代理：青柳）
欠席者（敬称略）：松本、河口、松原、高崎、高笠、大澤
4. 配布資料
資料 1：平成 28 年度第 2 回科学技術委員会開催通知
資料 2：第 17 回科学技術委員会技術セミナープログラム
資料 3：平成 28 年度第 1 回科学技術委員会議事録
資料 4：平成 28 年度科学技術委員会委員名簿
資料 5：IHE 臨床検査部門活動報告
資料 6：科学技術委員会第 16 集マニュアル企画案
机上配布資料：第 17 回科学技術委員会技術セミナー参加者集計
机上配布資料：第 16 集マニュアル執筆候補者案

5. 議事：

1) 報告事項

(1) 第 17 回科学技術委員会セミナーについて

第 17 回科学技術委員会技術セミナーがマニュアル第 15 集（汎用自動分析装置の基礎とその移り替わり -もう一度、勉強しよう、毎日使うあの装置を-）を基に、9 月 22 日（木）16 時～18 時の日程で開催された。今年は主催者都合と時間の関係で、弁当なしで実施した。事前予約、当日参加双方で、合計 230 名を超える多数の方にご参加いただいた。

2) 審議事項

(1) 平成 28 年度第 1 回委員会議事録の承認

本年 4 月の春季セミナー（浜松）時に実施された、第 1 回委員会の議事録案が承認された。

(2) 科学技術委員会マニュアル（第 16 集）の発刊について

池田委員長より第 16 集マニュアル企画案について、その目的と内容に関する説明があった。今年は汎用自動分析装置をテーマとしたが、次回は測定試薬をテーマとする。

その後、企画案について議論し以下の通り決定された。

- ・マニュアルを現場の教材として活用できるようにするため、教科書的な基本事項を理解したうえで、さらに取り扱い説明書に記載されている試薬・反応・パラメータの意味合いを理解できるように必要な知識を補完できるようなものとする。

- ・「5. 主な臨床化学検査測定試薬」は割愛し、その代わり参照できるホームページの URL を案内する

- ・「3. 2) 測定パラメータの意味と設定」は割愛し、「1) 主なアプリケーション方法」に含める

- ・「4. 試薬の保管と運用の実際」に、試薬間コンタミネーションを加える

- ・「2. 校正用物質（キャリブレーター）と校正方法」と「3. 自動分析装置へのアプリケーション」の順序を入れ替える

- ・「1. 6) 測定試薬用容器の形状」は「測定試薬用容器の選択」へ変更する

次いで、執筆者に関して案が提示され（机上配布資料）、以下の通り決定した。

- ・「試薬間コンタミネーション」は神山・村本両委員が担当する

- ・「測定試薬用容器の選択」は谷本委員へ変更する

スケジュールは資料の通りとし、後日、ページ数と執筆見本を執筆者に送付することになった。

（3）第 18 回科学技術セミナー企画案について

今回の技術セミナーを来年度の大会時（横浜）に実施するが、企画案は今回の委員会（島根での春季セミナー時）で決定する。

（4）IHE 臨床検査部門活動報告

大久保副委員長より、IHE臨床検査部門の活動内容に関して資料に基づいて報告があった。

（5）今後の委員会活動について

時間の関係で今回は省略するが、何かご意見等あれば事務局宛に寄せていただきたい。

（6）次回の委員会開催予定について

今回は 2017 年 4 月 21 日（金）の春季セミナーにおいて予定している。詳細は後日連絡する。

（7）その他

学会評議員として、本委員会から村本先生、篠原先生を推薦し、承認されたことが報告された。

（記録：澤部）